

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H01614

研究課題名(和文) 独居高齢者の社会的孤立予防に向けた民産官学共創GPモデルの構築と社会実装研究

研究課題名(英文) Development and social implementation research of a GP model to prevent social isolation among older adults living alone

研究代表者

田高 悦子 (TADAKA, ETSUKO)

北海道大学・保健科学研究所・教授

研究者番号：30333727

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,000,000円

研究成果の概要(和文)：急増する独居高齢者の社会的孤立・孤独死は、高齢者個人の尊厳のみならず、家族や友人、知人、近隣、社会の安寧を脅かす。よって独居高齢者の社会的孤立・孤独の予防にむけた社会を構築することは、高齢者個人はもとより、社会全体にかかわる、今日の重大な学術的、施策的課題である。本研究では、独居高齢者の社会的孤立・孤独の社会的要因に基づく社会的孤立・孤独の予防に向けた民産官学共創による Global - Good - Practiceモデルの開発に向けて、システマティックレビュー、エキスパートインタビュー、疫学調査を経て、介入モデルの計画、評価に資する多数の指標を開発し、その信頼性、妥当性を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

急増する独居高齢者の社会的孤立・孤独死は、高齢者個人の尊厳のみならず、家族や友人、知人、近隣、社会の安寧を脅かす。よって独居高齢者の社会的孤立・孤独の予防にむけた社会を構築することは、高齢者個人はもとより、社会全体にかかわる、今日の重大な学術的、施策的課題である。本研究で開発した介入モデルの計画、評価に資する多数の指標は、学術的、施策的有用性が高く、有意義である。

研究成果の概要(英文)：The social isolation and loneliness of the elderly living alone, which is rapidly increasing, threatens not only the dignity of the individual elderly, but also the well-being of their families, friends, acquaintances, neighbors, and society. Therefore, building a society aimed at preventing the social isolation and loneliness of the elderly living alone is a serious academic and policy issue that concerns not only individual elderly people but also society as a whole. This study aims to develop a Global-Good-Practice model for the prevention of social isolation and loneliness based on the social factors of social isolation and loneliness among the elderly living alone, through a systematic review, expert Through interviews and epidemiological studies, a number of indicators were developed to contribute to the planning and evaluation of the intervention model, and their reliability and validity were tested.

研究分野：公衆衛生学

キーワード：公衆衛生学 老年学 地域 社会 孤立 孤独 高齢者

## 1. 研究開始当初の背景

わが国の独居高齢者数は増加の一途を辿っている。その数は、1989年の159万人(65歳以上人口に占める割合13.1%)から2016年には463万人(26.7%)に達し、今後、2025年には680万人(40.5%)に達する(内閣府, 2016)。またこの推計は、今後、少子高齢化の進行や子らと同居しないライフスタイルの浸透、非婚率や離婚率の上昇等にすぎない、さらに顕著となることが予測されている。独居高齢者は他の世帯の高齢者に比して概して日常生活の自立度は高い。しかしながらその健康には特有の課題があることがすでに指摘されている。具体的には、緊急時の対応が脆弱であること、事故等による生命予後のリスクが高いこと等であるが、近年、より深刻な社会問題として顕在化しつつあるのは、地域から孤立し、誰にも看取られずに死亡したり、死亡後、放置されたりする孤立死、すなわち「社会的孤立死」である。

内閣府の報告(2016)によれば、近所づきあいが「全くない」者は、同居者がいる高齢者では4.4%であるのに対し、独居高齢者では24.1%に及ぶ。2010年、1899年生まれの男性が自宅で白骨化した状態で発見され、司法解剖の結果、30年以上前に死亡していることが明らかになったことを契機に行われた法務省の全国調査によれば、戸籍上は生存しているにも関わらず、所在不明の100歳以上の高齢者は、約23万人に上る。独居高齢者の社会的孤立の予防にむけては、地方公共団体が自ら、もしくは民間に委託し、さまざまな見守りの事業やサービスに着手しているが、全国的にサービスの利用率は最も高い緊急連絡先登録でも独居高齢者の1~2割に留まっている。中には、健康状態や経済状況が困窮しているにも関わらず自ら支援を拒否する者も見受けられる。すなわち実効性のある予防方策については未だ創出されていない。

## 2. 研究の目的

独居高齢者の社会的孤立予防に向けた民産官学共創による見守りの Good - Practice (GP) モデルを構築するとともに、同モデルの社会実装の計画ならびに評価に資する国際的指標(日・英)を開発し、その信頼性・妥当性を評価することである。

## 3. 研究の方法

【Phase 1】では、我々が開発してきた社会的孤立予防モデルフレームワークに基づき、地域特性と民産官学共創に基づく実践者の経験や知識をレビューのうえ、適切な内容を補充した GP モデルを開発し、同モデルの実装に必要なアイテムプールを作成した。

【Phase 2】では、全国の自治体において全国調査を実施し、同モデルの計画ならびに評価に資する国際的指標(日・英) the Self-efficacy for Social Participation Scale (SOSA) for Community-dwelling Older Adults を開発し、その信頼性・妥当性を評価した。

## 4. 研究成果

研究の主な成果は、本研究の目的に基づき、独居高齢者の社会的孤立予防に向けた民産官学共創による見守りの Good - Practice (GP) モデルの社会実装の計画ならびに評価に資する国際的指標(日・英) the Self-efficacy for Social Participation Scale (SOSA) for Community-dwelling Older Adults を開発し、日本全国調査において General Self-Efficacy Scale との並存妥当性等を含め、その信頼性・妥当性を実証したことにある。

また当該成果における独創的かつ新規的インパクトは、the Self-efficacy for Social Participation Scale (SOSA) for Community-dwelling Older Adults の定義(概念)「The perceived ability to participate in activities shared in time and space with others」を構築し、当該定義を構成する4因子、Instrumental self-efficacy Managerial、self-

efficacy Interpersonal self-efficacy、 Cultural self-efficacy を見出したことにある。

今後の展望は、本モデルならびに指標を国際実装し、その当該指標の有用性を評価するとともに当該指標における社会的孤立・孤独はもとより、超高齢社会における健康長寿延伸への直接的、間接的効果評価を行い、学術的、施策的發展に資することである。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Taguchi Hina, Tadaka Etsuko, Iwata Yuka, Arimoto Azusa	4. 巻 22
2. 論文標題 Factors associated with community commitment among older adults: a stratified analysis of community group leaders and members	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12877-022-03361-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Oki Moemi, Tadaka Etsuko	4. 巻 16
2. 論文標題 Development of a social contact self-efficacy scale for 'third agers' in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0253652	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Isozaki Ayano, Tadaka Etsuko	4. 巻 21
2. 論文標題 Development of a health behavior scale for older adults living alone receiving public assistance	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Public Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12889-021-11347-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Akatsuka E & Tadaka E	4. 巻 21
2. 論文標題 Development of a resilience scale for oldest-old age (RSO)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics. 21, 174, 2021.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12877-021-02036-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Miyashita T, Tadaka E, Arimoto A	4. 巻 26(9)
2. 論文標題 Cross-sectional study of individual and environmental factors associated with life-space mobility among community-dwelling independent older people	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Environmental Health and Preventive Medicine. 26(9), 2021	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12199-021-00936-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田高悦子	4. 巻 26
2. 論文標題 男性独居高齢者の社会的孤立の課題と予防方略における性差の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生きがい研究	6. 最初と最後の頁 4-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白谷佳恵, 伊藤絵梨子, 有本梓, 小野田真由美, 田高悦子	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 都市部住宅団地高齢者の生活時間・空間・行動及び地域との関わり合いに関する記述研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 横浜看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 細木千穂, 白谷佳恵, 田高悦子, 伊藤絵梨子, 有本梓	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 中山間農村地域の一人暮らし男性高齢者における地域との関わり合いの意味	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本地域看護学会誌	6. 最初と最後の頁 6-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計20件(うち招待講演 0件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Tadaka E, Oe N, Iwata Y, Arimoto A, & Ito E
2. 発表標題 Association of WHO-5 and physio-psycho-social function and social networks among independent healthy community-dwelling older adults.
3. 学会等名 The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tadaka E, Oe N, Iwata Y, Arimoto A, & Ito E
2. 発表標題 Factors Contributing to Self-Rated Health among independent healthy community-dwelling older adults.
3. 学会等名 The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Oe N & Tadaka E
2. 発表標題 Differences in Loneliness and isolation among community-dwelling older adults by household type: A nationwide survey in Japan.
3. 学会等名 The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Oe N & Tadaka E
2. 発表標題 Model development of 'The Self-Efficacy for Social Participation in older adults Living in the Community' (SPEC).
3. 学会等名 The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 磯崎彩乃, 田高悦子
2. 発表標題 生活保護を受給している独居高齢者における保健行動尺度の開発.
3. 学会等名 日本地域看護学会第24回学術集会. オンライン.
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大木萌未, 田高悦子.
2. 発表標題 サードエイジャーのソーシャルコンタクト自己効力感 (SET) の開発.
3. 学会等名 日本地域看護学会第24回学術集会. オンライン.
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤塚永貴, 田口陽菜, 田高悦子
2. 発表標題 住民主体の健康づくりグループ活動参加者の生きがい感及び関連要因の年齢層別比較
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上彩乃, 田高悦子, 有本梓, 白谷佳恵, 伊藤絵梨子
2. 発表標題 都市部の地域在住生活困窮高齢者における健康観と生活特性に関する質的記述的研究 対象者の健康観と生活特性を生み出す個人・地域要因を踏まえて
3. 学会等名 日本地域看護学会第23回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大木萌未, 田高悦子, 有本梓, 白谷佳恵, 伊藤絵梨子
2. 発表標題 都市部在住前期自立高齢者の健康長寿にむけた地域づくりのための方策の検討
3. 学会等名 日本地域看護学会第23回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田口陽菜, 赤塚永貴, 田高悦子
2. 発表標題 住民主体型健康づくりグループ活動高齢者の地域見守り自己効力感の関連要因の検討
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤絵梨子, 田高悦子, 白谷佳恵, 有本梓, 小野田真由美
2. 発表標題 都市部と農村部における高齢夫婦のみ世帯の地域との関係性の意味
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白谷佳恵, 田高悦子, 伊藤絵梨子, 有本梓, 小野田真由美
2. 発表標題 都市部団地における一人暮らし高齢者の地域との関係性の意味: プライマリーインフォマントインタビューより
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 白谷佳恵, 伊藤絵梨子, 有本梓, 田高悦子
2. 発表標題 都市部団地に居住する高齢者のみ世帯の生活時間・生活空間・生活行動
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大木萌未, 田高悦子, 伊藤絵梨子, 白谷佳恵, 有本梓
2. 発表標題 大都市在住自立高齢者における社会的孤立・閉じこもりの重複リスクの類型化と関連要因
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 品田飛鳥, 伊藤絵梨子, 田高悦子, 白谷佳恵, 有本梓
2. 発表標題 中核市における住民組織からみた一人暮らし男性高齢者の地域との関わり合い
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤塚永貴, 有本梓, 白谷佳恵, 伊藤絵梨子, 田高悦子
2. 発表標題 都市部在住の75歳以上の独居高齢者における在宅生活継続に関わる個人・環境・地域特性
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤絵梨子, 田高悦子, 白谷佳恵, 細木千穂, 有本梓
2. 発表標題 中山間農村地域の高齢者のみ世帯における地域との関わり合い: 専門職が捉える意味
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白谷佳恵, 田高悦子, 伊藤絵梨子, 細木千穂, 有本梓
2. 発表標題 中山間農村地域の高齢者における地域との関わり合い: 夫婦のみ世帯における意味
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 細木千穂, 白谷佳恵, 田高悦子, 伊藤絵梨子, 有本梓
2. 発表標題 中山間農村地域の高齢者における地域との関わり合い: 一人暮らし男性における意味
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮下智葉, 田高悦子, 有本梓
2. 発表標題 都市部在住自立高齢者におけるLife-space mobilityに関連する要因の検討
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊藤 絵梨子(宮崎絵梨子)  (ito esiko)  (50737484)	横浜市立大学・医学部・講師   (22701)	
研究分担者	有本 梓  (arimoto azusa)  (90451765)	横浜市立大学・医学部・教授   (22701)	
研究分担者	白谷 佳恵  (shiratani kae)  (40724943)	横浜市立大学・医学部・助教   (22701)	
研究分担者	大河内 彩子(井出彩子)  (okouchi ayako)  (70533074)	横浜市立大学・医学部・准教授   (22701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------